

# かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター  
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

※野外施設の情報は、ホームページで詳しく見られます

## 野外施設自然情報

自然環境保全センター 生き物

検索

自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察する場の自然観察園(昭和57年オープン)と、樹木一つ一つをじっくり観察する場の樹木観察園とがあります。樹木観察園は約50年前(旧林業試験場時代)に整備されました。野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、植物や野鳥、虫たちの興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

この「かわせみ通信」では、おもに10~12月に記録された野外施設の自然の情報を掲載しています。

### <最近の話題>

#### ●センサーカメラで見る動物たち 第2弾

前回に引き続き、平成29年9月26日から平成30年2月4日までのセンサーカメラの記録をお知らせします。今回は記録されたすべての回数を載せましたが、今回は同じ時刻に複数回撮影されているものは1回としました。鳥類については、すべてのカメラに写った回数の合計を表にしています。



Y25奥(2017/10/21撮影)

迫力のイノシシのどアップ。

地上では見ることの少ないイカルの群れ。水を飲んでいました。



Y25奥(2017/11/18撮影)

こちらはしま模様のある尾が特徴の外来生物アライグマ。アライグマ、ガビチョウ、ソウシチョウは特定外来生物に指定されています。

#### センサーカメラに写った哺乳類と回数(9/26~2/4)

哺乳類	Y25奥	Y32奥	Y34奥
シカ	37	12	123
イノシシ	13	2	74
タヌキ	29	16	14
ノウサギ	57	0	14
ハクビシン	0	16	7
アナグマ	4	2	0
テン	2	1	0
アライグマ	1	0	1
イタチ	1	0	0
ネコ	1	0	0

#### センサーカメラに写った鳥類と回数(9/26~2/4)

種名	回数	種名	回数
ガビチョウ	61	クロジ	1
コジュケイ	15	シメ	1
アオジ	10	シロハラ	1
クロツグミ	9	ソウシチョウ	1
キジバト	3	トラツグミ	1
ヒヨドリ	2	ビンズイ	1
ヤマシギ	2	フクロウ	1
イカル	1		



Y25奥(2017/12/6撮影)



テン(上)とイタチ(下)。同じよう  
姿ですが大きさが違います。



### ヤマシギ

シギ科で夜行性の留鳥です。日中は薄暗い林ややぶ  
の中に潜んでいるので、なかなか目にする機会が少  
ない鳥です。日没後に湿地や畑に出てきて、くちば  
しを地面に差し込みミミズや小動物を採食します。  
動画では沢沿いの地面をつついてはいる様子がうつつ  
ていました。

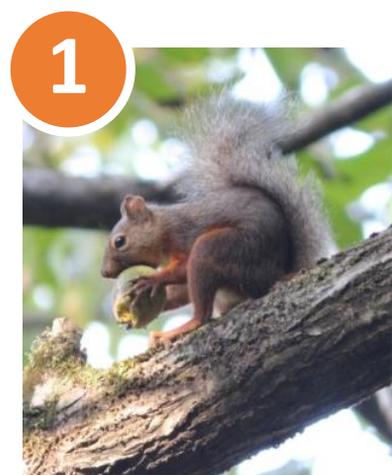
## <気になる生き物>

### ●ニホンリスの食事

10月、園内に生えているオニグルミの実を食べるニホンリスの姿がよく観察されました。どこかに埋  
めて貯蔵するつもりなのか、たわわに実った枝付きのクルミを重そうに運んでいる姿も見られました。

貯蔵したクルミは冬の間の食糧となりますが、多くは場所を忘れてしまいそのままになり、その実が発芽するこ  
とがあります。リスはクルミにとって種まきをしてくれる種子散布者ということになります。お互いになくはない関  
係なのです。

リスのクルミの食べ方はとても器用です。園内でじっくり観察できた「ニホンリスの食事」をご紹介します。



果肉をはがします。  
※写真は2014年撮影



殻の合わせ目に沿ってかじって  
半分に割ります。



割れた半分をお椀を重ねるよう  
に持って、中身を食べます。  
1個食べる時間は  
10分ほど。

### ミニ観察会に参加しませんか？

ボランティアの解説員とともに野外施設の生き物を観察します。

\* 毎週日曜日・祝日に開催しています。

\* 申込不要・参加費無料

\* 当日の13時に本館前に集合 (約2時間)



# 傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報は、ホームページで見られます

神奈川県 自然保護課 野生動物救護 検索

自然環境保全センター（旧自然保護センター）では傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた、傷ついたり弱ったりした県内の野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を收容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載していきます。

## <平成29年10月～12月の受け入れ実績報告>

受付件数の多かった上位種			主な救護原因			
			<鳥 類>		<哺乳類>	
1位	キジバト	11件				
2位	コシジロウミツバメ	9件	ガラス窓などへの衝突	25件	疥癬症 (かいせんしょう)	6件
3位	ホンドタヌキ	7件	ネコなどに襲われる	15件	交通事故	1件
4位	アオバト	4件	台風の影響	13件	台風の影響	1件
4位	トビ	4件	交通事故	4件		
4位	メジロ	4件	釣り糸(針)や 防鳥ネットなどに絡む	2件		

## <平成29年度 第1回救護動物特別公開>

去る11月12日（日）に平成29年度第1回救護動物特別公開を行いました！本来は10月22日（日）の予定でしたが、季節外れの台風21号直撃のため開催日を直前に変更させていただく事態に…  
いつもよりちょっと肌寒い時期となってしまいました。

さて、今回は、「神奈川県に生息する野生動物（主に哺乳類）を知ろう！」をコンセプトに、いろいろな展示を作りました。

まずは、当センターの野生動物救護ボランティアが作成したムササビの剥製やニホンジカの頭蓋骨と角の実物を展示。実際に触れて、骨や毛の感触を実感していただきました！

また初の試みでしたが、身近な哺乳類（ホンドタヌキ、イノシシ、ニホンリスなど）についての説明パネルは、ボランティアさんに描いていただいたかわいいイラストで作成。写真とはひと味違う展示に、より足を止めていただけたようでした。あわせて、身近に見つけられる動物の痕跡を写真や実物で見ただき、中には「神奈川県にたくさんの種類の動物たちがいるんだ！」と驚かれる方も多くおられ、山に生息していると思っていた動物が、実は街の方が生息しやすい?!など新たな発見もしていただけたようです。



恒例のどうぶつクイズは、ちょっと難しい問題も入っていたので、動物をじっくり観察してもらったいい機会になったようです。このどうぶつクイズの景品は、センター特製の手作り羽飾り。とても好評でした。

この特別公開では、野生動物救護ボランティアや職員が常時おりますので、わからないことなど、皆様の質問に回答いたします。



夏鳥

# アオバズク 青葉木菟の越冬

アオバズクは、青葉の頃に渡来する  
ミズク(フクロウの仲間)です



2017年8月6日大磯町内で保護されたアオバズク(巣立ちヒナ)が  
持ち込まれました。夏鳥であるこの種をどのように越冬させているのかを紹介します。

1



原因は不明ですが、特にケガはありませんでした。  
しかし、両翼の風切羽が抜けていて飛ぶことができない状態のため、受け入れる事になりました。餌は自力でよく食べます。

2



野外の広い部屋に出したところ、羽が少し生えてきました。しかし、9月中旬でまだ飛ぶ事ができません。10月になると仲間たちは渡ってしまい県内では見られなくなるため、当センターで越冬させることになりました。

3



夏鳥は寒さが苦手です。施設の構造上、野外に出しておけないため、室温30℃の屋内へ。バタついて大切な羽を痛めないようにボランティア手作りのダンボールハウス(キャスター付!)を作りました!  
(80cm×80cm×100cm)

4



鳥は、とまっている時間が長くなると足裏に負担がかかりヒフが赤くなってひどくなると傷になる事もあります。うまく飛べない場合は、体

重管理をして予防する必要があります。この個体の場合は、170g台に維持するのが良いようで、週2回の体重測定と足裏の状態を確認しながら給餌量を調整しています。止まり木に人工芝を巻いているのも、足への負担を軽減させるためです。  
このように工夫しながら当センターで越冬させて、暖かくなったら、屋外でのリハビリを再開する予定です。

種名 アオバズク

学名 *Ninox scutulata*

分類 フクロウ目フクロウ科

漢字名 青葉木菟など

名前の由来 青葉の頃に渡来するミズク(フクロウの仲間)と言われています。

全長 約29cm

県内では、4月上旬頃から平地や低山、神社などの林に渡来し繁殖します。10月中旬頃には、フィリピン諸島など東南アジアに渡ってゆく夏鳥です。

夜間に活動し、昆虫類を主に食べますが、小鳥やコウモリなども食べます。

本県のレッドデータブック(2006)によると繁殖期・絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。